

イエス様を正しく知る幸せ (マルコ 6:14-16)

なぜ人々は心に重荷を抱えて憂鬱な状態になるのでしょうか。また欲に走り、激しい競争の世界を走り、みな疲れています。なぜなのでしょう。また他人と比較して傷つけたり、傷ついたりしながら生きています。なぜこうになってしまうのでしょうか。それ相当の理由があるからでしょうかとみな思っているかもしれませんが。そこでクリスチャンの私たちは留まってこのように問いかけないといけません。本当にイエス様を知っているなら話は変わってくるのではないのでしょうか。つまり、それ相当の理由があるからというのが当たり前で普通に思われているでしょうけれども、実はそうではなくて、イエス様を正しく知っているのかそうでないかが人生の勝敗を決める鍵であるということをお忘れはいけません。人生が幸せなものになるのか、不幸のままなのか分かれるポイントがそれ相当の理由ではなくて、イエス様のことを正しく知るかそうでないかにあるということをご覚悟いただきましょう。

ならばイエス様を正しく知るということは何なのかということをお考えないといけません。特に今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様が奇跡を行ない、また、いやしの働きをなさった噂が広まるようになり、イエスの御名が知れ渡ることになったと書いてあります。それを聞いて人々は、これはバプテスマのヨハネだと。あるいは預言者のひとりだ。特にヘロデ王という人は「これは私が首を切った殺したバプテスマのヨハネが生き返ったものなんだ。だからあんな力が生まれるんだろう」と言っていました。ヘロデ王がバプテスマのヨハネの首を切ったことの詳細が今日読みました聖書の箇所の次に書かれています。自分の弟の奥さんと結婚したことに対してバプテスマのヨハネが文句を言いました。それに対してあまり良い気持ちではありませんでした。けれども群衆がみなバプテスマのヨハネに従っていたので、政治的に手をかけることが難しいと思って迷っていたときに、弟の奥さんの娘さんの誕生日に何が望みなのかと聞くと、バプテスマのヨハネの首が欲しいと言われ、それを実行して結局バプテスマのヨハネを殺してしまいます。それが多分、心にずっと引っかかっていたのでしょう。その時、イエス様の噂を聞いて、「これはヨハネが生き返ったのだ」と不安の中でそのように思ったでしょう。でも、それも正解ではありません。イエス様の噂を聞きますが、イエス様のごことが正しく分かっていないという様子が今日の聖書に書かれています。

1. この世はイエス様を正しく知ることができない

なので、残念ながら、第一にこの世はイエス様を正しく知ることができません。これを忘れてはいけません。この世はイエス様を正しく知ることなどできません。

1) 根本の理由(ヨハネ 8:44、エペソ 2:1、Ⅱコリント 4:4)

なぜなのかということをお、まず根本的な理由から考えていきましょう。ヨハネ 8:44には「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって」という恐ろしい事実が記されています。だから、イエス様のごことを知ることができません。神様を離れた罪人であるこの世は、エペソ 2:1にあるように「自分の罪過と罪との中に死んでいた者」なのです。たましいが死んだままの状態なので、真理であるイエス様を正しく知る機能そのものが死んでしまいました。それからパウロもこのように言っています。Ⅱコリント 4:4に「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」とあります。このような誘い込む霊の妨げによって、人々がどんなに自分で勉強しても研究しても、また修行してもイエス様の噂を聞いても聖書を読んでもイエス様のごことを正しく知ることが根本的にできない状態なのです。だから人々はイエス様のごことを正しく知ることができません。

2) 実際の理由(自分、肉、世の枠)

そして、この根本的な状態によって、実際にイエス様のごことを知ることができない理由を抱えて生きています。それが何かと言うと、神様を離れたままの状態なので自分という枠に閉じ込められています。そして目に見えるこの肉の世界、それがすべてだという枠が固まって、それに閉じ込められています。そして、この世に希望があると思って、この世という枠に閉じ込められてしまいました。結

局、その人が今まで勉強して学んできた知識も自分、肉、世という枠の中でのものなのです。また様々な経験があったでしょう。その経験も実は、自分、肉、この世という枠の中で成り立っているものなのです。また、人それぞれ様々な感情というものが生まれます。その感情があるということが人間の特徴でしょう。しかし、その感情というものも、実は自分、肉、この世という枠の中で生まれるものなのです。だから絶対その枠の中で勉強した知識、また経験、感情というものに流されるので、イエス様のことを正しく知ることはできません。今日の聖書にもイエス様の噂が知れ渡ったとあります。イエス様のことを聞いてはいます。しかし、人々の反応はどうだったのでしょうか。預言者のひとり、エリヤかもしれない、バプテスマのヨハネではないのかということなのです。結局、この枠の中に閉じ込められている限り、全部が自己中心で自分のレベルでイエス様のことを見て解釈します。また、自分の望み、自分の願い、自分の課題、それをメインにして、それを眼鏡にしてイエス様のことを見るので、イエス様を正しく知ることはできません。最終的には、自分、肉、この世という枠の中で成立される利害関係というものが絡んでその目で見るので、いくらイエス様のお話を聞いても、イエス様のことを正しく知ることはできないでしょう。病気の人は自分の病気がテーマなので、病気を治してくれる方というふうにはしか見ることができません。貧乏な人はこの貧乏から脱出できる、私を金持ちにしてくれる方として見るしかありません。独裁政権で、あるいは植民地の支配の中にいる人々は、この政権を転覆させて私たちを独立させ解放させる方というふうにはしか見ることができません。自分の弱さに悩んでいる者は、なんとなく自分の内側から自分を強めてくれる方としてとしか見ることができません。この自分、肉、この世という枠をはみ出して、そこを乗り越えてイエス様を見ることができないわけです。みながイエス様をそういう目で見るといけないので、根本から不可能な状態で実際に自分を超越することができないので、その間違っている眼鏡を掛けて見ているので、イエス様の噂を聞いてもイエス様を正しく知ることはできません。これが現状なのです。

3) この世は不幸から抜けられない

結果、この世はいくら頑張っても、いくらもがいて工夫しても不幸から抜けることができません。どんなに頑張っても、例え自分の願いが叶ったとしても、そして富が手に入ったとしても不幸は消えません。イエス様を正しく知らない限り人生が変わること、根本的に変わるなどないからです。これがこの世の現状なのです。何が羨ましいのでしょうか。この世から何が学べるものなのでしょうか。憧れるものなどどこにあるのでしょうか。これはレムナントの皆さんが勉強などをおろそかにしてもいいという話ではありません。しかし、それに何かがあるから勉強に励むわけではありません。福音を伝えるために、その勉強には希望がないことをその勉強の世界に入っておあかしするために勉強が上達していかないといけないわけです。そういう意味合いを持って、私たちは真面目に誠実に最善を尽くして、自分に許されている勉強、業などに最善を尽くすわけです。これがクリスチャンのスタンスです。しかし、根本的に正しく理解しないといけないのは、そして、この世の中で揺れる必要がない理由は、この世は根本的に不幸から抜けられません。世にあるものでは無理なのです。この世、そして、世にあるものでは不幸から抜け出すことは不可能なのです。なぜなのでしょう。この世は、世にあるものではイエス様のことを正しく知ることができないからそうならざるをえません。なのでこれを裏返しますと、今礼拝を捧げている小さなレムナントから年配の方に至るまでこのようなことを確認して、神の御声として素直に心を開いて聞き入れていただきたいと思うのです。

2. イエス様を正しく知ることは奇跡であり、最高の幸せである

これが二番目です。イエス様を正しく知るといことは奇跡なのです。だから何よりほかのことがどうであれ、イエス様を正しく知ったということは最高の幸せなのです。これが今週、神様が愛する皆さんに語っていらっしゃるメッセージです。皆さんの心に肝に銘じて欲しいと神様が語っていらっしゃいます。イエス様のことを正しく知ることは奇跡であり、最高の幸福なんだと。

1) エペソ 2:8、1:4、I コリント 12:3、II コリント 10:4-5

エペソ 2:8には、あなたがたが救われたのは、つまりイエス様のことを正しく知ったのは頭が良いからではなくて、修業したからではなくて、賢いからでもなくて、神の「恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物」プレゼントなんだよとあります。イエス様を正しく知っている人は、人同士に何かの違いがあるから比較したり劣等感を持ったり優越感に浸ったりということはおかしいことなのです。世の中はそれが当たり前かもしれませ

ん。それに慣れていて傷ついて心がもやもやになっているレムナントも今日限りやめましょう。それはこの世がイエス様を知らないからそうなるしかないのです。イエス様を正しく知っている者は、その最高の幸せと祝福は神から与えられるプレゼントなので、人間のどうのこうのとは全く関係なく、人同士の比較したり比較されたりということから自由になりましょう。エペソ1:4には、世界の基が置かれる前から私たちが救われることが定められていたとあります。今の私たちの頭では理解できませんけれども、それが霊の世界、それが神の世界なのです。皆さんがイエス様のことを正しく知ることになったというのは、世界の基が置かれる前からちゃんと計画なさっていたのでこうなるわけです。どこに人間のどうのこうのが入る余地があるのでしょうか。これが奇跡なのです。Ⅰコリント12:3にこう書いてあります。よく聞いてください。「また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。私たちがイエス様のことを正しく知ったのは、知識があるから理解できたからではなくて、聖霊様が皆さんの内側でイエス様のことを正しく知るように働いてくださった結果、分かったと聖書はそう宣言しています。もう一か所読みましょうか。Ⅱコリント10:4-5「私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ」。つまり私たちの中にはキリストと敵対する思いしかありません。キリストの反対の方に行く高ぶりしか持っていません。すべての私たちの内側にある思想や理論というものは全部イエス様のことを正しく知ることができないように構成されているものばかりなのです。しかもそれがどれほど丈夫なものなのかわかりません。ほかのなにかでは絶対砕かれることはありません。そういう私たちが要塞を破る力ある聖霊の力によってそれが全部砕かれ、心の内側からイエス様のことを正しく知ることができたわけです。これを神様の恵み、そして、不可能な状況から見たときに奇跡と言うしかないものではないでしょうか。イエス様を正しく知るということは、奇跡中の奇跡、神の恵み中の恵みなのです。このような神様の恵み、働きによって私たちの心の内側からこの世の中では絶対知ることができないのにイエス様のことを正しくすることができました。それでイエス様をキリストと告白するようになったわけです。イエス様はバプテスマのヨハネがよみがえった方ではありません。預言者のひとり、すごい力を現していらっしゃるからエリヤだというふうにみな思っているのですが、それらの部類のひとりではありません。世界四大聖人の人、そんなのは言語道断です。イエスはキリストなのです。

2) マタイ 16:16

ペテロが言いました。「あなたは、生ける神の御子キリストです」。自分が病気なのか貧乏なのか関係なく、金持ちなのか先進国なのか等々と一切関係なく、善良な市民なのか刑務所にいる人間なのか、そういう人間の条件など一切関係なく、すべての人は罪とのろいの運命に捕らわれています。イエスはその罪とのろいと地獄の運命から解放させるキリストです。それがイエス様を正しく知るということです。イエス様をキリストと理解することが正しく知るということです。「ああ、イエス様は人のために死なれたので豊かな方だろう」。間違いないでしょうけれども、その人がイメージしているそのイエス様は、自分、肉、この世の枠の中のイメージなのです。特に、日本人の場合に、日本の教会でそういうイメージが結構膨らんで大きいです。愛、愛と唱えているのですがどんな愛なのか。イエスはキリストなのです。この知識に揺れることがあってはいけません。イエス様は貧乏であれ金持ちであれ関係なく皆悪魔サタンの奴隷なので、その悪魔サタンの奴隷から私たちを自由にしてくださる真の王様キリストなのです。イエス様をそこら中の英雄や偉人と一緒にしてはいけません。イエスはキリストなのです。イエス様は神様ご自身であり、人間のために人の姿を取って十字架で死なれたキリストなのです。それでイエス様は神様から離れた人間がその神様とまた一緒になるようにいのちであり、神様と一緒にいのちを与えられる真の預言者なのです。イエスはキリストなのです。博士も大統領も政治家も科学者もイエス様のことは知ることができません。なのにこんな惨めな私たちがどのようにしてイエス様のことを知ることができたのでしょうか。イエス様をキリストと告白することができたのでしょうか。奇跡なのです。それに自分がどうのこうの、その信仰がふらふら揺れたりする必要はありません。皆さんのどうのこうのと関係なく、一方的に神様が私たちの心の内側で奇跡を起こされました。イエス様がキリストだからこそ、誰でも小さなレムナントでも年配の方でもこのイエス様をキリストと信じて受け入れたその瞬間、新しく生まれることになり、古いものは過ぎ去り、すべてが新しく作り変えられることになります。そして、今まで神様を離れて実は悪魔サタンが主人として支配していたものなのに、悪魔サタンが逃げ去り、神様がその人の内側に入って、し

かも二度と離れることなく、何があっても世界が半分に割れても離れることなく永遠にともにおられることとなります。これを永遠のいのちと言います。なぜそうなるのでしょうか。ただ信じただけなのに。イエスはキリストだからです。だから幸せなのです。だからこれは皆さんの人生の中で最高の出来事なのです。問題はこのことに対する感謝と感激があまりないということです。教会に通って幸いイエス様をキリストと教える教会とつながり、そのことが分かってイエス様をキリストと告白しながらも、その意味がどれほどすごいものなのかまだ気づいていないということが一番残念なのです。まるで昔、アフリカの原住民がダイヤモンドで石遊びをしていて、それを西洋の人たちが見て、すごいおいしいご馳走をあげてダイヤモンドを全部奪っていきました。そういう格好なのです。今日限り、その考え方を変えてください。皆さん、自分に対する解釈も全部変えてください。イエス様がキリストなので、ただイエス様を正しく知り、しかも神の恵みによって知ってイエス様を告白しただけなのに、神様が永遠にともにおられるがゆえに、今現在、この地上のすべてから自由になり、すべてを超越できる御座の祝福が自分のものになります。だから、イエス様を正しく知るということは、たとえすべてを奪われることがあっても幸せなのです。そのすべてがこの幸せを奪うことはできません。私の命を奪うことがあってもこの幸せは奪うことはできません。四方八方から苦しめられても窮することはありません。でも実際はそうではないでしょう。だから、このことを正しく知り、契約として握って24時に祈ることが大切なのです。これが2部礼拝です。問題は祈りだけなのです。もうすでにこうなってしまいました。皆さんが気づいてるか気づいていない関係なく、神様の恵みにより私たちはイエス様を正しく知り、キリストとして告白する者になりました。そして、いつ死んでも天国に行けるように、天の御国の国籍を与えられ保証されることになりました。これがイエス様を正しく知り、キリストとして告白したということです。だから何より皆さんが今どういう状況なのかわかりませんし、それぞれいろいろな課題、悩み事などあるかもしれませんが、それを先に考えると負けます。それがいくら現実、事実であってもそれを先に考えると霊の世界においては負けなのです。

3) 正しい信仰告白への感謝

だから、イエス様を正しく知るこの奇跡、この最高の幸せを思い出して、正しい信仰告白に対して感謝しましょう。皆さんの感謝を奪う様々なことがあると思います。なんでこんな親で生まれたのか。なぜ親は私を捨てたのか。なぜ旦那さんはこうなのか。なぜ給料がこんなに安いのか。なぜ私にこんな才能などが無いのか。いろいろな不満があるかもしれません。なぜそういう不満に走るのでしょうか。最初の序論の方に戻りましょうか。それ相当の理由があるからとみなそう思うのでしょうか。だから騙されて負けるのです。自分、目に見える肉、この世の枠の中に閉じ込められていたその習性がまだ残っているからなのです。それをタラップの用語で「暗やみのやぐら」と言います。全部砕かれないといけません。皆さんは「イエスはキリスト」と告白している者なのです。それを感謝しましょう。それをまず感謝していないから、何もかもが不満でつぶやきで心配でイライラになるしかありません。こういう風にお話している牧師でも自分の知り合いの後輩があまりにも生意気だったので、イライラして霊的にモヤモヤになり、それでよく考えてみたら最終的には感謝しました。自分の24時の祈りが絶対必要だということを示されたわけです。言葉の中では24時、24時と言っている。私には聖霊の御座の祝福が24時必要なんだ。その人にも現場にも24時、それが必要なんだ。絶対その必要が見えてきたときに祈りに入ります。それを祈るようになります。こうしてください、ああしてくださいという単純なそういう祈りではなくて。皆さんの未信者の家族に何が必要だと思いますか。本当にサタンの国が見えているのでしょうか。本当に創世記3章、6章、11章の枠というのが見えてくるのでしょうか。ならば今までこうなってほしい、ああなってほしいということがどれほど恥ずかしいものになるのでしょうか。そこに本当に地上のものではなくて御座の祝福と三位一体の神様と神様のものが絶対求められるのではないのでしょうか。だからそれを祈るわけです。そのように分かって祈ることと、ただ暗記して祈ることとは違うでしょう。私たちはその祝福が自分のものになっています。ただ信じて味わえばいいのです。そのためにまずいろいろなことがあったでしょうけれども、あるでしょうけれども、イエスはキリストと知り告白していることに対して、まず感謝しましょう。もう私にはこれ以上の奇跡はありません。もう奇跡は起きています。これからの皆さんの人生は奇跡の連続になるでしょう。御座の祝福によって引っ張られていくようになりますので祈ればいいのです。祈りだけなのです。そして、これがどれほどすごいことなのかを聖書を通して正しく理解して、それをじっくりと向き合って感謝しましょう。幸せなんだねと。どこかの歌手みたいではなくて。「幸せだなあ」と言っていたその人も脳梗塞で倒れて引退しました。だから世の中に幸せはありません。パウロ

は刑務所の中に入っている時にも自分の病気が治らない時にも幸せと本気で言っていたのです。彼の幸せは病気が迫害が奪うことができない幸せです。なぜならイエスを正しく知り、イエスをキリストと知り告白することができたので、これ以上何が望みなのでしょうか。知らないからです。

まとめましょうか。人生の勝利はイエスを考えることを一順にするところから始まります。それでイエスをキリストと告白することを一順にするところから始まります。ヘブル3:1にこう書いてあります。「そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい」。これを一順、第一にすることが霊的な戦いの勝利の鍵であり、人生の勝利の鍵なのです。どんなに険しい状況であろうが、自分がどんなに弱い人間であろう一切関係ありません。ここをスタートにしましょう。場合によっては気持ちが曇ってしまう場合もあるかもしれませんが。それでもここからスタートしましょう。この奇跡を軽く扱わないように。ヘブル12:2にも「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」。これが人生の勝利のスタートです。イエスのことを考えて、深く考えて、イエス様を見上げ、イエスを正しく告白することを一順にすると、そこから問題を見る目がまず変わります。今まで問題だったのが問題でなくなります。そして、そこから自分を見ることを改めるようになります。自分が思っていた自分ではなくて、今申し上げましたように最高に祝福された神の子どもとしての自分をそこで見つけるようになります。当然、このイエスがキリストであるという知識と告白からスタートすると、この世を見る目が変わります。この世は憧れの対象ではありません。羨ましいところではありません。だからといって軽く無視するところでもありません。この世は福音が絶対必要な宣教地として見えてくるようになります。イエスがキリストであるという知識と信仰告白から始まりますと当然結果として、だから私は何のために生まれて何のために存在して生きて行くのかという理由が明確になります。迷うことなどありません。イエスの証人として福音宣教のためにミッションのために人生を生きる者なのです。それで皆さんの生まれたこと、つらいこと、うれしいこと、才能や学校、勉強すべてをそこから解釈しないといけません。そのためにつらいこともあったんだね。そのためにこの勉強が許されているのだね。そのために私にこのような才能が許されているのか。大事に大事に最善を尽くすようになるでしょう。そして、何のために生きるのかが改められたときに、どのようにしてそのミッションの人生を生きるのかが見えてくるようになります。それで最終的に使徒1:7-8にたどり着くようになります。イエスがキリストであるという正しい知識と信仰告白から始めると、ここにたどり着くようになります。さまざまな言い訳、いろんな言いたいことがあるでしょうけれども、それはあなたがたは知らなくてもいいのです。なぜならイエスはキリストだから。私たちの生きる理由は神の理由なので絶対なのです。そして、私たちは神がともにおられる御座の祝福の主人公である神の神殿なのです。ならば、それはあなたがたは知らなくてもいいのです。世の中で勉強したこと、人々が言うことなどは参考に過ぎないもので、あまりにもそれを真面目に当てにするから信仰に走ることが邪魔されるわけです。私たちはそうする必要がありません。その人たちは知らない御座の祝福を持っているからその上を歩かないといけません。だからそれは知らなくてもいいよ。無視されても知らなくてもいいよ。うれしいことがあっても知らなくてもいいよ。つらいことがあっても知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまでわたしの証人となるよ。世界を生かすことができるよ。柳先生が最近おっしゃっています。世界福音化と自分とを本当に直接つながっているのか。80%以上の信徒さんは関係ないんですね。10%は変な信仰です。それでつながっている者は10%しかない。皆さん、自分がその80%、10%、10%の中でどこに入っているのか吟味してみましょう。私たちはみな弱いかどうか関係なく、世界を生かすために召されているものなのです。なぜそこまで自分自身をちゃんと正しく見ることができないのでしょうか。イエスをキリストと告白することを感謝して、そこからスタートしていないからです。今までの自分、肉、世、そこから吸収していた何かのものからいつもスタートするんです。考えることは100%間違いです。祈るべきです。みことばを握って。それでこの約束のみことばにたどり着いて、そうするとその人が邪魔されずに祈りに専念する14節の祈りに入ることができるようになります。他は何も気にしないで祈るだけなのです。そのときに皆さんの内側に神のやぐらが建てられて、ついに証人として用いられる驚くほどの祝福の奇跡の人生が展開されていくようになります。この祝福の主人公であることを改めて確認して感謝しましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日もイエス・キリストを知り、告白する尊い神の民がレムナントを始め、年配の方々まで集まり、礼拝を捧げることが心から感謝申し上げます。どうかひとりひとりにイエスがキリストと告白することに対する態度を改めるように祝福を与えてください。感謝とともに一順にしてマルコのタラップンの祈りが自分の祈りになるように、残りの生涯、奇跡の証人としての人生を歩めるように、ひとりひとりを祝福してください。御座の祝福がここにいる全員のものであることをひとりひとりが確信できるように豊かに祝福を与えて、この祝福を味わうための静かな時を持つことができるように、ひとりひとりを励ましてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン